

東医歯医病医第66号

平成3年4月2日

国立大学医学部附属病院長会議常置委員会委員長

千葉大学医学部附属病院長 岡本昭二 殿

第6回全国国立大学病院集中治療部協議会

東京医科歯科大学医学部附属病院

集中治療部長 天羽敬祐

第45回国立大学医学部附属病院長会議の議題について（回答）

平成3年2月13日付け千大院常第1号で、御照会のありましたこのことについて、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

(議題 1)

臨床工学技士の定員化と集中治療部への配置について

(提案理由)

集中治療部では、診断及び治療に際し数多くの高度先進医用機器が必要であり、その使用に際しては、安全かつ十分な機能を発揮させるために常時厳重な保守管理・点検が要求される。

人工呼吸器、各種モニター装置、除細動器、ペースメーカー、血液浄化装置、I A B P (大動脈内バルーンバイピング) 機器、超音波診断装置及び緊急検査機器等の医用機器の保守管理・点検・修理は、多くの大学で医師に委ねられているのが現状であり、これら医用機器の安全性や精度並びに保守管理に診療時間が割かれる等の問題が、集中治療部協議会において多数の大学から指摘された。

以上の理由により、医用機器の保守管理・点検・修理を行うことのできる人員が集中治療部には不可欠である。既に臨床工学技士が制度化されており、有資格者の定員化ならびに集中治療部への配置を要望する。

(議題 2)

看護婦の定員増について

(提案理由)

高度複雑化する集中治療を行う上で、集中治療部の看護婦には多岐にわたる知識と高度な看護技術が要求されるため、勤務時間内の過重なストレスの蓄積を余儀なくされると共に、勤務時間外にも長期間にわたる自己研鑽が必要である。

現在、集中治療部看護婦の定員が不足しているため、各大学とも院内操作で補充することにより対処運営しているが、依然として絶対数が不足しているのが実状であり、上記の理由に加えて、夜勤回数が多い等の点も含め過重労働を強いられており、その勤務体制に深刻な支障を来している。

この状態が是正されない限り、集中治療部の合理的運営は困難で、各科の患者入室希望に十分対応しかねる現状にあり、治療成績や一般病棟の病床回転率の悪化、ひいては近い将来施行される高次機能病院の区分化の際に、国立大学病院が危機に晒される可能性が生じる。

本件は従来からの継続要望事項であり、諸般の情勢から定員増が至難であることは承知しているが、以上の理由により敢えて集中治療部看護婦の定員増を強く要望する。

(議題3)

集中治療部近代化予算について

(提案理由)

近代医学において、診療、教育並びに研究に集中治療部の担う役割は、近年著しく重要性を増してきている。一方、診断装置を含め医用機器の発達はめざましく、その進歩に即応すると共に、最近集中治療部で大きな問題となっている感染症対策として、バイオクリーンルーム等の整備を行い、常に高度な集中治療を目指す必要がある。私立大学病院の集中治療部では、人員増のみならず、高度先端医用機器の購入及び近代的設備の拡充を図っており、現状のままでは私立大学病院との格差が広がり、近い将来施行される高次機能病院の区分化の際に重要視される条件の一つである集中治療部の機能の観点から、国立大学病院が危機的状況に晒される可能性も有り得る。

以上の理由で、既設の設備・医用機器の更新並びに特に感染症対策を目的とした設備の整備等を行うために、集中治療部の近代化予算を要望する。

議 題 及 び 提 案 理 由

部門名 集中治療部協議会

(議題4)

教官の定員増について

(提案理由)

数年来の継続要望事項である。現在の集中治療部の教官数では、卒前、卒後教育、集中治療医学研究の促進のみならず、集中治療部の教官だけで当直体制を組むことが困難な状況にある。

諸般の情勢及び定員削減に関する当局の指導が行われている現状から、定員増が至難であることは承知しているが、敢えて教官の定員増を要望する。

議 題 及 び 提 案 理 由

部門名 集中治療部協議会

(議題5)

集中治療部の設置について

(提案理由)

継続要望事項である。厚生省では集中治療部を高次機能病院の条件として案件化しており、既に集中治療部を運営し、予算措置を求めている諸大学病院に対して早急な設置を要望する。